

[2] 全体概況

試験時間 80 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：25 問	
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ	○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<p>総評</p> <p>問題の分量、出題形式ともに大きな変化がなく、難易度も標準的[＝昨年並み]であったので、テキストや授業の内容をしっかりと復習し、理解していた人にとっては組みしやすい問題であったと思われる。しかし読解問題の配点が例年通り 200 点満点中の 154 点(会話問題を含む)と高かったため、語彙力と速読力の差がそのまま得点差に反映されることは間違いない。</p>			

[3] 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	発音・アクセント	14 点	形式的な変化としては、B のアクセント問題から見出し語が消えたが、設問数、難易度ともに変化は見られなかった。
第 2 問	文法・語法・会話	41 点	文法と語法(語彙)の出題割合は、ほぼ 1 対 1 であった。全体的な難易度は会話問題を含めて、標準的であったが、C の問 2 の整序問題はセンター試験としては難易度の高い問題であった。
第 3 問	文脈把握 語数 A. 問 1 47 語 問 2 59 語 B. 347 語 C. 319 語	46 点	昨年同様、語句の意味、意見の要約、欠落文補充という形式での出題であった。難易度は標準的で、論理的に(特にイコール関係を意識して)読めれば得点源にできたはずである。
第 4 問	資料読解 語数 A. 239 語 B. 236 語	33 点	昨年同様、グラフやイラストから情報を読み取る問題が出題された。A は<EU 諸国の社会的価値観>を、本文と棒グラフから、B は英字新聞の購読に関する広告から情報を読み取る問題であった。
第 5 問	ヴィジュアル読解 語数 600 語	30 点	昨年同様、ある状況<家族での外出>について、二人の人物がそれぞれの観点から述べている文章が出題された。問 5 は「外出した日に手に入れたもの」を問うヴィジュアル問題であった。
第 6 問	長文読解 語数 591 語	36 点	昨年同様、論説文が出題された。<齧歯(げっし)類が生き残っていける理由>を扱った文章で、昨年度の出題文と比較して、約 60 語減少した。